

あんしん・あんぜん・元気なてらやつ 広報第14号

寺谷小域福祉ネットワークだより

****編集・発行****
発行責任者:前川 清
問合せ先:「なのはな館」
電話: 92-1481

寺谷小域福祉ネットワーク会長挨拶 会長 前川 清



寺谷小学校区域の皆様には、日ごろより「寺谷小域ネットワーク」の活動に温かいご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。私儀、この度の役員改選により、再び会長として務めさせていただきます。どうか宜しくお願いいたします。

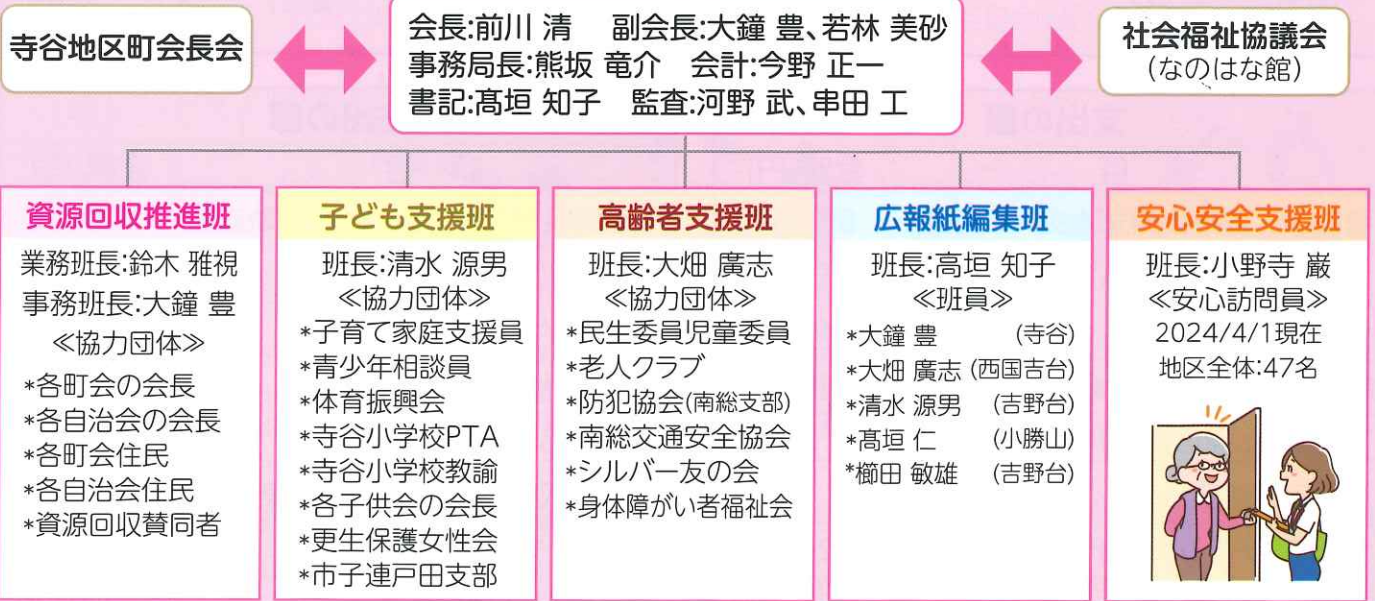
さて、昨年度は新型コロナウイルスから脱却でき、自由に人が集まれるようになりました。「いきいきサロン」では大勢の方に集まって頂き、コロナ禍以前の状態に戻りました。

また、「学び塾寺谷」では、カレーライス作り等飲食を伴う体験もでき、人と人の繋がりが大切であると言うことを改めて感じた次第です。

さらに、今年度は「日常生活支援事業」の開始に加え、「寺谷小学校の閉校」も計画されています。これらの事業達成のため、皆さんの更なるご協力をお願いします。

豊かさよりも、安心して暮らせる町・心のやすらぎを求める人々が集まる街、「住んで良かった、住みたい街」こんな街づくりに貢献できたらと願う次第です。

寺谷小域福祉ネットワーク(役員・各班の紹介)



令和5年度資源回収事業結果報告

日頃より、当事業の推進にご理解・ご協力をいただきお礼申し上げます。

昨年度におきましてもお陰様で無事執行でき、その結果を報告します。

回収量は87トン (昨年比10トン減) 収益金88万円 (昨年比8万円減) で、特に「紙類1トン」

が目だって減少しました。

全体回収量の減少傾向は続いておりますが、ご支援よろしくお願い致します。

次に参考として、市原市の令和4年度ごみ処理状況ですが、ごみの排出量は86,700トン

その内資源物収集量が10,100トン、内訳は、市の事業で行われている『分別収集』で8,000トン

『資源回収団体』により2,100トンで、団体による資源物回収率は20%を占めています。

また、ごみ全体量からの資源再生利用率は11%です。



令和5年度決算および令和6年度の予算概要

令和5年度の事業報告・決算並びに令和6年度の事業計画・予算案が、令和6年5月25日に戸田コミュニティセンターにおいて定期総会にて承認されました。概要は次の通りです。

令和5年度 寺谷小域福祉ネットワーク会計報告	
収入の部	
項目	金額(円)
令和5年度繰越金	1,525,962
地域福祉活動補助金	200,000
地域福祉支援事業	60,000
南総地区町会長会補助金	13,500
資源回収 収益金	498,740
資源回収 助成金	352,800
茶話会(サロン)参加費	37,100
茶話会会場助成金(4会場)	30,000
茶話会(サロン)助成金	33,100
貯金利息	12
合計	2,751,214


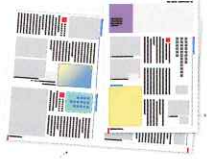






令和6年度 寺谷小域福祉ネットワーク予算	
収入の部	
項目	金額(円)
令和6年度繰越金	1,566,463
地域福祉活動補助金	200,000
地域福祉支援事業	60,000
南総地区町会長会補助金	13,500
資源回収 収益金	500,000
資源回収 助成金	350,000
茶話会(サロン)参加費	30,000
茶話会会場助成金(4会場)	30,000
茶話会(サロン)助成金	30,000
貯金利息	12
合計	2,779,975

支出の部	
項目	金額(円)
資源回収 各町会(子ども会)へ助成金	832,000
資源回収助成金(PTA)	54,720
寺谷小学校 学び塾	49,853
いきいきサロン 茶話会	149,131
事務用品、通信費、コピー代	9,555
資源回収備品(メッシュネット等)	0
広報紙・チラシ 印刷代	29,477
会議費(お茶等)	26,300
災害見舞助成金	0
南総地区社協 賛助会費	0
寺谷小学校閉校記念事業助成金	0
てらやつ祭り助成金	33,715
日常生活支援助成金	0
予備費	0
合計	1,184,751

支出の部	
項目	金額(円)
資源回収 各町会(子ども会)へ助成金	700,000
資源回収助成金(PTA)	50,000
寺谷小学校 学び塾	50,000
共生型サロン	150,000
事務用品、通信費、コピー代	10,000
資源回収備品(メッシュネット等)	10,000
広報紙・チラシ 印刷代	30,000
会議費(お茶等)	30,000
災害見舞助成金	200,000
南総地区社協 賛助会費	5,000
寺谷小学校閉校記念事業助成金	50,000
てらやつ祭り助成金	35,000
日常生活支援助成金	100,000
予備費	30,000
次期繰越金	1,329,975
合計	2,779,975

収入 2,751,214 円－支出 1,184,751 円
=1,566,463 円(令和6年度へ繰越金)

令和6年度 寺谷小域福祉ネットワーク事業計画

班 月	資源回収推進班 (回収日) (予備日)		子ども支援班 (学び塾日程)	高齢者支援班 (共生型サロン日程)	広報紙 編集班	安心安全 支援班
令和6年 4月	4/7	4/14		4/26(金) 吉野台自治会館	4/13(土) 14号 第1回編集委員会	1. 一人暮らしの高齢者が地域で孤立しないよう訪問活動などで未然に防止する。 2. 異常を発見した時に迅速に対応できる体制を確保する。 3. 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる様に地域全体で支援する。
5月	5/12	なし		5/24(金) 南岩崎自治会館	5/18(土) 14号 第2回編集委員会	
6月	6/2	6/9		6/28(金) 西国吉台集会所	6/8(土) 仕分け作業、各町会に配布	
7月	7/7	7/14	7/25(木) 小勝山団地自治会館			
8月	8/4	なし				
9月	9/1	9/8		9/27(金) 吉野台自治会館		4. 「日常生活支援事業」をスタートさせ、「お互い様」、「向こう三軒両隣」を基本理念とし、先ずは「できる事」から始めます。
10月	10/6	10/13 or 10/14		10/19(土) カレーライス作り	10/25(金) 南岩崎自治会館	
11月	11/3	11/10		11/22(金) 西国吉台集会所	11/9(土) 15号 第2回編集委員会	
12月	12/1	12/8	12/7(土) クリスマスリース・クレープ作り	12/12(木) 寺谷地区全体クリスマス会／小勝山団地自治会館	12/14(土) 仕分け作業、各町会に配布	
令和7年 1月	1/5	1/12	1/31(土) 寺谷カルタ閉講式			
2月	2/2	2/9				
3月	3/2	3/9				

*8月の予備日は、11日でお盆休み期間中のため、4日の実施日が中止の場合、8月は実施しません。
*10月の予備日は13日か14日の連休中に「市原市市民体育祭」が開催される予定です。詳細は未定のため、6日が悪天候で資源回収が中止の場合、体育祭が開催されない日程に調整いたします。あらかじめご了承ください。

資源回収収益金について

令和5年度は、**資源回収での収益金が 合計で約88万円**あり、この全額を町会・自治会、PTA、子ども会に分配しました。町会・自治会は、6月、12月の2回に分けて支給し、子ども会、PTAは12月に支給しました。



① 町会・自治会	1世帯当たり	560円 × 1,388世帯	▶▶▶	777,280円
② 子ども会	1人当たり	720円 × 76名	▶▶▶	54,720円
③ PTA	子ども会と同額		▶▶▶	54,720円
合計				886,720円

令和6年度は、町会・自治会 1世帯当たり 500円
子ども会 1人当たり 700円
PTA 子ども会と同額 で計画しています。

閉校までの
タイムテーブル

2024年	4月	3日	寺谷小学校 閉校事業推進対策組織委員会 発足 以降定期的に実行委員会開催予定
2024年	5月	25日	記念事業 寺谷小学校 最後の運動会
2024年	8月	4日	記念事業「てらやつ祭り」
2025年	3月	14日	寺谷小学校 卒業証書授与式
2025年	3月	15日	寺谷小学校 閉校記念式典
2025年	3月	31日	寺谷小学校 閉校

記念式典までに、記念品
および記念誌を配布予定

寺谷小学校の歩みをたどる vol.2

竹の子の皮を集めて

「木馬の夢」の主人公である寺谷分校の子供たちは、竹の子が若竹に成長する過程ではがれ落ちる皮を集めてそれを売り、楽器やテレビを買う足しにしたという。いったい子供ひとりどれほどの皮を集めたのだろう。そしてそれはどれほどの価値を生んだのだろう。気になるので調べて試算してみた。

昭和33年(1958年)度の学校日誌によれば、6月下旬~7月上旬に竹皮集めを5日間行い、7月11日に竹の皮買い人が訪れ、打金(内金か)20,000円を置いていく、とあった。そして8月にテレビ購入寄附金の打ち合わせがあり9月には正式に取り付けられたようだ。

インターネットで検索をすると、昭和30年代のテレビの価格が判る。また物価指数なども判るので貨幣価値を現代に換算することができる。ただし、おおよその額であることをお断わりしておく。

昭和30年(1955年)の白黒テレビは89,500円、昭和35年(1960年)の白黒テレビが14吋(インチ)のものが58,000円で、カラーテレビは50万円していた。ただ、カラー放送が始まったのは昭和35年からだから、昭和33年に購入したテレビがカラーのはずはない。竹の皮の売り上げがどれほどになったかは記録が無いので分からないが、内金20,000円の5倍と仮定して、竹の皮の100,000円と寄附金で楽器と白黒テレビが買えたでしょう。

さて1950年を100とした物価指数で1955年は136.7に対し2015年が831.5だという。従って昭和33年(1958年)当時の白黒

テレビを80,000円として、物価の上昇率が831.5/137.6=6.0倍であるから、白黒テレビを現在の価値に換算すると80,000×6.0=480,000円となる。これは令和3年(2021年)

の大卒初任給の2倍強に相当する額だ。100,000円分の竹の皮は今の600,000円位の収入を寺谷分校にもたらしたのだろう。

竹の皮は当時肉や魚を小売りする時に食材を包むのに使われた。今でいう発泡トレイやレジ袋のようなものだ。レジ袋は1枚3~5円で売られるが、仕入れはその5分の1くらいの額だろう。つまりレジ袋1枚の仕入れを1円としてその1/6が当時の竹の皮1枚の値段と考えると、分校の子供たちは竹の皮6枚を集めて初めて1円を手にすることができた訳で、100,000円分の竹の皮60万枚を全校児童(昭和33年は89名)で集めたとするなら、一人当たり6,700枚以上を5日間つまり1日1,350枚を集めた計算になる。里山の竹林の斜面を伝いながら拾い集めるのだからこれはいへんな重労働だったに違いない。

「当時お祭りには、親からもらったぴかぴかの(鳳凰や稲の図柄の)100円銀貨を握りしめて出かけたのを覚えている」と寺谷地区の大鐘さんから教わった。分校の子供たちひとりひとりが、特別の日にもらう小遣いの10倍以上を竹の皮で稼いでいたように思える。

(文責 高垣 仁)



編集後記

世界中を恐怖で震撼させた新型コロナ感染症ですが、国内では昨年5月に第5類になり国民も落ち着いてきたと思われます。しかし新型コロナ感染症が少なくなり、円安が続いているために、外国からの観光客が増え、それと同時に新たな感染症も広がっているようです。各人の対応が必要かと思います。

今年度で寺谷小学校が閉校となり、牛久小学校と統合されるため、子ども達の交流も多くなり、日頃の行動に留意が必要になります。

今年の寺谷小学校ネットワークは、例年の5つの班に加えて「日常生活支援事業」も本格的に活動を行っていきますので地域の皆様のご協力をお願い申し上げます。
清水源男

第2回 てらやつ祭りのお知らせ

昨年ご好評いただいた「てらやつ祭り」が再び開催されることになりました。

今年は寺谷小PTAも参加し、昨年同様に吉野太鼓連の演舞、こころ舞踊団のダンスに加え、バンド演奏やシャボン玉パフォーマンスが行われ、参加ブースも増える見込みです。また、市原市と教育委員会の後援を得て、市内各地にポスターも掲示されます。

8月4日(日曜日)、10時から16時まで。皆様お誘い合わせの上お越しください。

